

2021 年度スローガン

恩うがままに

2021 年度基本方針

1. 創始を恩う創立 55 周年
2. かつてを恩うまちづくり
3. 未来を恩う青少年育成
4. 互いを恩う資質向上と拡大

2021 年度理事長所信

第 55 代 理事長 遠藤 宗一郎

【はじめに】

思う、想う、念う。読み方は同じでも、意味合いは大きく異なります。

思うは自らがどうおもうか、想うは字のごとく相手に対する心をおもう、念うは希望し心の中で願うおもいです。書き方が異なることで意味が変わる文化には深みがあります。

青年会議所に入会してから様々な経験を得る機会を与えていただき、私自身その度に出会ってきたたくさんの方々に強く恩を感じてきました。恩は恵みに対する恩、恩恵であり恩返し、恩送りなど今までに受けた恩を指し、辞書にはありませんが、ありがたいの気持ちが込められている私の考えるもうひとつの恩い（おもい）です。様々な「おもい」がある中で、今の自分を取り巻く人々や環境を改めて振り返り感謝の気持ちを抱いてこれまでに受けた恩を返し、次代へ繋ぐべく本年度のスローガンを「恩うがままに」とさせていただきます。

5 年前、安来青年会議所創立 50 周年の年に安来ビジョン「～Bridge to the Future～」を青年会議所運動の目的意識の向上や、今後進む道を示すために策定しました。そこには、これまで先人たちが積み上げてきた実績が学ぶべき価値として記載されています。安来市の歴史を振り返り、安来市が抱える課題や問題点に対してどのようなことを行ってきたか、それを踏まえて今後我々はどのような取り組みを行っていくのか宣言しました。

あれから 5 年、めまぐるしく変化する環境において青年会議所という組織で学んだ経験を通じて自らがどう思うか、各種事業の立ち上げに関わる会員や参加者、家族に対してどう想うか、このまちの未来をどう念うか、これまでに青年会議所を通じて出

会った方々や創立以来このまちの更なる発展にご尽力いただいた諸先輩方にどう思うか、感謝の気持ちをもって今一度考える一年間とし、新たな節目の時を迎えるための未来に向けた運動を展開していきます。

【創始を思う創立 55 周年】

安来青年会議所は 1966 年、一般社団法人米子青年会議所のスポンサーを以って創立し、本年度で 55 周年を迎えます。半世紀を超えて築き上げられてきた数多くの運動と功績に敬意を表すと共に、積み重ねられてきた実績と信頼があるからこそ、日々我々が青年会議所運動に励むことができることに感謝と恩恵の念を表します。

よく「100 年企業」と耳にします。言葉の通り創業以来 100 年を経過した企業であり、伝統企業や老舗企業とも呼ばれます。企業の生存率は国税庁の企業生存率調査によると、10 年で 6.3%、20 年で 0.4%、30 年で 0.021%といわれています。もちろん青年会議所は企業ではなく非営利組織であり、様々な業種の会員が有志で集まる団体です。先人たちをはじめ、今の会員皆仕事の合間を縫って青年会議所運動に取り組んでいます。決して余裕があるからではなく、このまちのことを真剣に考えようすればもっと良くなるのか互いに話し合いより良い運動を展開していくためであり、それは会員企業の繁栄に繋がり、更にはこのまちや子どもたちの未来に必要なだと信じているからです。

これまで、その時代において取り組んできた手法や表現方法は異なれど、歴史や伝統の中には必ず地域の未来を描く鍵が存在し、その鍵は我々の未来に向けた運動に繋がります。受け継がれてきた先人たちの熱き想いを胸に、時代に即した運動を常に考え新たな価値を創造することを目指します。

決してこの組織を絶やしてはなりません。我々はこれから先 5 年、10 年と次の世代へ青年としての熱き思いを繋いでいくためにも、次代を見据えた運動を展開していきます。

【かつてを思うまちづくり】

安来市には有名な郷土民謡である安来節や、安来節と共に広まったどじょう掬い踊りがあります。江戸時代末期に、ほろ酔い気分の民達が近くの小川から捕まえてきたどじょうを酒の肴に掬うしぐさを真似て踊ったことが発祥のきっかけとされています。市内にはどじょうの生息に適した土水路をはじめ一級河川である飯梨川、海水魚と淡水魚が共に生息する貴重な水域の中海があります。

汽水域の中海は内海であり波が穏やかで、安来港ではハゼ釣りやスズキ釣りを楽しんでいる方々を見かけます。一方で、境水道を通じて日本海に繋がるため国際物流の拠点として、西日本の玄関口となりうる可能性も有している貴重な地域資源です。また宍道湖と繋がる連結汽水湖であるため、広大な面積と波の穏やかさを活用した安全

性を背景に静岡県は浜名湖のようなマリレジャーに特化する潜在力もあると考えます。港の対岸には安来節で唄われる十神山があり、飯梨川を上れば歴史に名を刻む月山があり、海山川多くの魅力的な地域資源があります。

まずは市民一人ひとりが率先して地域資源に触れることがまちづくりの第一歩であり、実体験を通じて感じることでできる魅力や故郷の資源のありがたみを再認識することは、郷土愛を育む人々を増やすことに繋がるものとなります。実際に体験したことは伝え聞いた情報よりも強く印象に残り、自らの経験談は人に話したくなるものです。本年度、我々は他者に伝えたいようなまちづくり事業を行っていきます。

昭和 63 年、安来青年会議所主催で島田町から米子市旗ヶ崎まで中海にドラム缶を浮かべ渡る事業が開催されました。中海架橋の実現を訴えかけるものであり、令和においても色褪せぬすばらしい事業だと思います。

先人たちが築き上げた軌跡から学び、海や山や川、古くから存在する豊富な地域資源の恩恵にあずかり、如何に活用していくか。我々の思うまちづくりを展開していきます。

【未来を思う青少年育成】

少子高齢化が叫ばれる現代社会において、地域の子どもたちは未来を担う大切な存在ですが、時代が進むにつれ子どもたちを取り巻く環境も日々変化しています。我々が子どもの頃は本やテレビが情報源であり知りたいことがあれば図書館へ行き、苦勞して見つけたことは貴重なものでした。しかし近年はインターネットの普及によりたくさんの方が情報に溢れており、スマートフォン一つあればいつでもどこにいてもインターネットに繋がります。

現代を否定し「昔は良かった」というつもりはありません。時代の変化に応じて子どもたちのコミュニケーションや遊びのツールとして、SNS やゲームアプリなどの割合が増えることは社会の進化の賜物です。しかし、その割合が増えることで昔のような実体験を通じた探求心や、それを見つけたときの楽しさが損なわれているのではないのでしょうか。

気になることがあれば検索し、その場で結果がすぐに分かる。スピード化された現代社会においてはそれも重要なことです。しかし「どうやって調べよう、何を使って探そう、どこにいった誰に聞こう？」といった過程も子どもたちにとっては調べ方を考えるという意味ではとても大切であり、時間を掛けてようやくたどり着いた先に見えるものは、答えは同じでも見え方が違ってくると思います。現代はインターネットで検索するとすぐに答えが示されそれが正しいのか判断する力が必要ですが、その判断さえもインターネットに依存すると困難にぶつかった時に他の選択肢が分からなくなり、試行錯誤して調べたかつての過程や経験からくる粘り強さが乏しいものとなってしまいます。

子ども本来の探求心をくすぐるような、その過程で挑戦する心や仲間と共に同じ目的に向かって協力することで自然と協調性が育めるような、我々の思う青少年育成事業を展開していきます。

【互いを思う資質向上と拡大】

「青年会議所は最後の学び舎」私が入会当初ある先輩から言われた言葉であり、在籍年数を積み重ねるごとにその意味を強く感じます。

青年会議所は様々な役職がありそれに伴う役割も異なり、その組み合わせが毎年入れ替わります。新たな役職を通じて試行錯誤しながら失敗や成功を重ねて得ることのできる経験は自分を押し上げることに繋がります。時にはサポート役に回り、時には大手を振って人を巻き込む側に立つこともあります。頑張っている会員の背中を見て「こうなりたい、この人についていきたい」と思い、力を貸してくれる会員に対して恩義が生まれ互いに支えあう中で成長していくことができるのです。

必死になって取り組んだことはその時には目をくれる暇もなく気づかないこともありますが、後に振り返ると改めて自らの成長に繋がったと感じるものであります。決してこなしはならず、吞まれてはなりません。会員一同が胸を張り自己成長に繋がると自信と情熱を持って発信することができれば新たな仲間たちにも必ず伝わります。互いを思い、苦楽を共にした仲間同士で創り上げるまちづくり、青少年育成事業はきっと魅力溢れる事業となり、多くの方々に発信したくなる事業となります。

青年会議所は40歳で卒業となります。連綿と受け継がれてきたこの組織を絶やさないためにも、会員拡大は必須の課題であり5年後、10年後の明るい豊かな社会の実現に向けた互いに語る仲間を増やすためにも会員拡大を行います。まだ見ぬ新たな仲間たちにも届くよう、我々の思う資質向上・会員拡大事業を展開していきます。

【むすびに】

これまで以上に先を見通すことが困難な時代がやってきました。いつ起こるか分からない地震を始めとし、台風に伴う風水害などの天災地変に加えて、未知のウイルスが蔓延し人々の生活や経済に大きな打撃を与えています。新型コロナウイルスはマスクの着用やソーシャルディスタンスを図るような予防方針は示されていますが、感染した際の特効薬やワクチンなどは開発中の段階です。どれも人の力でコントロールすることが難しく、不安や焦燥感が広がっています。

各事業者様はじめ安来市民の方々にとっても大変なご苦勞、ご心勞があったことと存じます。このような状況の中、我々青年会議所運動も昨年度は形を変え試行する1年間となりました。本年度も刻一刻と状況が変わりゆく中で、常に変化に応じて形を変えることができる組織でなければなりません。

しかし、手法や表現方法は異なれど青年会議所が理念に掲げる「明るい豊かな社会

の実現」に向けた運動が変わることはありません。我々の住み暮らす地域の方々との繋がりや恵みをもたらしてくれる地域資源、青年会議所運動を通じて関わった方々に対する感謝の気持ちを胸に、地域を思い、未来ある子どもたちを思い、まだ見ぬ仲間たちを思い運動を展開していきましょう。

思うがままに動くことは一人よがりな行動です。相手を思いながらも恩恵の念を忘れず常に持ち合わせ謙虚に、されど青年らしく大胆に英知と勇気と情熱をもって、思うがままに運動を展開していくことをお誓い申し上げ、2021年度理事長所信とさせていただきます。